

## 刊行によせて

---

神奈川大学日本常民文化研究所は、戦後間もなく行われた漁業制度資料調査による史・資料 25 万点を含む膨大な資料を所蔵し、また民具研究を中心に長年にわたり「常民」、すなわち庶民の生活文化に関する多方面の調査・研究を行ってきました。その実績が評価され文部科学省の 21 世紀 COE プログラムに採択され、「人類文化研究のための非文字資料の体系化」（2003～2007 年度）の拠点となり、その後、事業は同研究所に付置された非文字資料研究センターに引き継がれています。さらに、2009 年度には国際常民文化研究機構として文部科学省から共同研究拠点到認定され、5 年度にわたる事業を推進することになりました（「平成 21 年度人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」、現「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」）。

機構設立の目的の一つは、日本常民文化研究所の創設者・渋沢敬三（1896～1963）の「ハーモニアス・デヴェロップメント」精神を受け継ぎ、国内・外の研究者コミュニティに広く「常民文化」研究の史・資料と場・機会を提供し、その学際的・国際的展開をはかり、研究分野を拡大、深化させることにあります。そのために、当該学界・研究者コミュニティの意見の反映をはかり学外の研究者が過半数を占める運営委員会を組織し、その論議のもとに、5 つの研究分野——1. 海域・海民史の総合的研究、2. 民具資料の文化資源化、3. 非文字資料（画像・身体技法・景観）の体系化、4. 映像資料の文化資源化、5. 常民文化資料共有化システムの開発——を設定し、応募条件をホームページ上に公開するなど広く年度ごとに公募を呼びかけ、プロジェクト型共同研究を進めることにしました。その結果、上記の 5 研究分野に応じ下記の 8 課題、

- 1 - 1 漁場利用の比較研究（研究代表者 田和 正孝）
- 1 - 2 日本列島周辺海域における水産史に関する総合的研究（研究代表者 伊藤 康宏）
- 1 - 3 環太平洋海域における伝統的造船技術の比較研究（研究代表者 後藤 明）
- 2 - 1 民具の名称に関する基礎的研究（研究代表者 神野 善治）
- 2 - 2 東アジアの民具・物質文化からみた比較文化史（研究代表者 角南 聡一郎）
- 3 アジア祭祀芸能の比較研究（研究代表者 野村 伸一）
- 4 アチックフィルム・写真にみるモノ・身体・表象（研究代表者 高城 玲）
- 5 第二次大戦中および占領期の民族学・文化人類学（研究代表者 泉水 英計）

が設定され、80 人余の共同研究者がつどうことになりました。研究代表者には神奈川大学以外に所属する最適者が選任されましたが、4 と 5 は、日本常民文化研究所が所蔵する資料を直接扱い、諸権利関係も存在するため神奈川大学の教員が任じることになりました。

本書は、そのうちの、5「第二次大戦中および占領期の民族学・文化人類学」（研究代表者 泉水 英計）班の研究成果報告書となります。

本共同研究は、民族学振興会（前身は民族学協会）が残した膨大な所蔵資料を利用可能な形に整え、これを活用して主に第二次世界大戦から占領期までの民族学・文化人類学の変遷を究明することを目的として推進されました。周知のように、同振興会は、渋沢敬三らの尽力によって 1934 年に設立された日本民族学会（現在の日本文化人類学会）と連携し、エスノグラフィーに基礎を置く学術研究の組織的活動を支えてきましたが、1999 年に解散するに至りました。それにともない、

その所蔵資料は、神奈川大学日本常民文化研究所に寄贈されることとなりました。学会活動の足跡をたどる上では不可欠な資料群であるにも関わらず、解読は未だ手つかずのままであり、研究に供する状態とはなっていません。本研究の進展により、各地に分散している関係資料群を結びつけた包括的な学史の再検討が可能となるとともに、現地での新情報の発掘と、英米を中心に展開した人類学理論や調査方法論からの影響の検証を通して、学术界全般の動向、さらにはその時代時代の日本社会における民族学会の位置と役割を解明することが目的でした。

すでに、民族学振興会資料群の精査や現地における追跡調査、さらには、第4回国際常民文化研究機構国際シンポジウム「二つのミンゾク学—多文化共生のための人類文化研究—」の一部を構成する公開研究会「ミンゾク研究の光と影—近代日本の異文化体験と学知—」などの成果を踏まえ、2012年度には『国際常民文化研究叢書4—第二次大戦中および占領期の民族学・文化人類学—』と題する論文集を刊行しています。

本書は、それに続く第2冊目の刊行物であり、膨大な資料群の中から、研究材料として有用性が高く、かつ学史を跡づける上で重要な資料と考えられる、戦中に民族研究所と民族学協会が共同開催した「民族研究講座」の筆記録を翻刻してまとめたものです。筆記録の掲載を許諾していただいた多くの関係者に感謝するとともに、限られた研究条件のもと作業に当たられた方々に、心より謝意を表したいと思います。また、本書の刊行により、民族学、文化人類学、民俗学の歴史に関心を持たれる研究者の学史研究に寄与できることを願うとともに、国際常民文化研究機構の事業に引き続きご助言と、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年3月吉日

神奈川大学日本常民文化研究所長  
国際常民文化研究機構運営委員長

田上 繁